

インフルエンザ予防接種に関する「注意事項」

インフルエンザ予防接種の実施にあたり、医師が受けられる方の健康状態をよく把握する必要がありますので、下記の情報を必ずよくお読みになり、できる限り詳しく問診票をご記入下さい。また、お子様が受けられる場合は、健康状態をよく把握している保護者の方がご記入下さい。

■ ワクチンの効果と副反応について

予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することも期待できます。一方、ワクチン接種に伴う副反応として、注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、痺れる、小水疱がみられることがあります。また、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、咳、嘔吐・嘔気、下痢、関節痛、筋肉痛、筋力低下なども起こることがあります。過敏症として、発疹、蕁麻疹、湿疹、紅斑、かゆみなども起こることがあります。

その他、蜂巣炎、顔面神経麻痺などの麻痺、末梢性ニューロパチー、失神、血管迷走神経反応、ぶどう膜炎が現れることがあります。強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので、必ず事前に医師にお申し出下さい。尚、非常にまれですが、以下のような副反応が起こることもあります。

(1)ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等）、(2)急性散在性髄膜炎（接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、痙攣、運動障害、意識障害等）、(3)脳炎・脳症、髄膜炎、視神経炎、(4)ギランバレー症候群（両手足のしびれ、歩行障害等）、(5)痙攣（熱性痙攣を含む）、(6)肝機能障害、黄疸、(7)喘息発作、(8)血小板減少性紫斑病、血小板減少、(9)血管炎（アレルギー性紫斑病、アレルギー性肉芽腫性血管炎、白血球破砕性血管炎等）、(10)間質性肺炎、(11)皮膚粘膜眼症候群（Stevens-johnson 症候群）、(12)ネフローゼ症候群

このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師にお申し出下さい。

■ インフルエンザ予防接種を受けることができない方

- 1.明らかに発熱のある方（37.5℃を超えている方）
- 2.重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- 3.過去にインフルエンザ予防接種を受けて、アナフィラキシーショック（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難、全身性の蕁麻疹などを伴う重症のアレルギー反応）を起こしたことがある方
尚、他の医薬品の投与によりアナフィラキシーショックを起こしたことがある方は、接種前に必ず医師にお申し出頂き、判断を仰いで下さい。
- 4.その他、医師がインフルエンザ予防接種を受けることが不相当と判断した方

■ インフルエンザ予防接種を受けるにあたり、医師とよく相談する必要がある方

- 1.心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの方
- 2.発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている方
- 3.過去に予防接種を受けた時に、2 日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常が見られた方
- 4.今までに痙攣を起こしたことがある方
- 5.過去にご本人や近親者で免疫状態の異常を指摘されたことがある方
- 6.間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患がある方
- 7.薬の投与または食事（鶏肉、鶏卵など）で発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
- 8.妊娠の可能性がある方

■ ワクチン接種後の注意

- 1.インフルエンザ予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応（息苦しさ、蕁麻疹、咳等）が起きることがあります。暫く様子を観察し、体調不良などの際は、すぐに医師にご相談下さい。
- 2.接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことは避けて下さい。
- 3.接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通り生活して下さい。尚、激しい運動や大量の飲酒は避けて下さい。
- 4.万一、高熱や痙攣等の異常な症状が出た場合は、すぐに医師の診察を受けて下さい。

あなたの接種予定日	医療機関名
令和 年 月 日 () 当日は受付に 時 分にお越し下さい。	南流山ファミリー耳鼻咽喉科

インフルエンザ予防接種により、健康被害（入院が必要な程度の疾病や障害等）が生じた場合については、健康被害を受けた方またはご家族が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて、救済手続きを行う制度があります。詳しくは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページをご覧ください。

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

電話：0120-149-931 URL：<http://www.pmda.go.jp>